

講演 2

ゆれる子ども達と親の心もよう

登別市立緑陽中学校 校長 石垣則昭
(認定学校カウンセラー・認定上級教育カウンセラー)

1 はじめに

子ども達の心配な行動には必ず意味があり、大人へのメッセージとして捉えなければなりません。しかし、現実はどうでしょうか、心配な現象面だけで子どもを責め続ける大人達の存在、子ども達は好きでそうなったのでしょうか。子ども達の心の叫びが届いていますか。子ども達の内なる声に耳を傾けてみませんか。

2 Y子のいい知れぬ孤独感

先生、私生まれてこないほうがよかったの

3 M子の悲しいなみだ

家に帰りたくない、学校にいさせて

4 Y男の嘆き

俺、好きでこうなったんじゃない

5 おわりに

疎外感が強く、心を閉ざした子ども達と接して感じることは、周りの大人達への不信感、しかし愛されたいという交錯した感情が同居していることです。子ども達には称賛と罰と言う2極的な関わりではなく、子ども達の思いや願いにどう寄り添えるかが大切です。そして子ども達にとってあたたかな存在になることです。

子どもの心配な行動は、親も教師も自らの反省に立たなければなりません。しかし残念なことに多く聞かれるのは、子ども不在の親が悪い学校が悪いなどの責任追及の言葉です。私たち大人が考えなければならないことは、子どもにとって何が大切なのかを問い続けながら、回復や解消のために行動することです。

皆さん、子ども達を正視し勇気を持って前へ進みませんか。